

シリカブロー 施設野菜向け使用報告書

川村産業株式会社

農業関連事業部

現在シリカブローについては、主に柑橘類の浮き皮軽減・開花時の花卉抜け促進のための乾燥材として使用されているが、その他の施設農業においても過湿による害が有り、その対策としての用途を探るため各種試験の実施並びに現在の使用方法について報告いたします。

現在の主な使用方法

露地栽培みかん

降雨・結露による果面の濡れ防止で

800～1,000倍液を果実付近に散布。

九州、愛媛中心に販売

※表面に白斑が生じる(写真参考)こともあるが、

表面を乾拭きすることにより除去可能



シリカブロー 800倍+展着剤

施設園芸事例

基本的な考え方として、植物体表面にある水分を、本材に吸着させ病原菌の使用できる水分を減少させることを目的とし、その作物ごとの散布必要量を現在調査中。

1. イチゴ

栽培条件の中で過湿による病害の発生として、灰色カビ、菌核等が挙げられます。

本商品の特性上直接菌に対して影響を及ぼすことはできませんが、表面水分を低下させるという環境制御の一環として使用。

使用倍率: 1番開花時期まで1,000倍 茎葉中心に散布。

それ以外では2,000～2,500倍で散布。

鉢物資材で水和剤のため展着剤による

汚れ軽減に努めてください

頻 度: 現在は過湿になりやすい時期のみ散布。定期的には使用せず。

混用について: 他材と混用できない農薬は同様に不可

シリカブロー+殺菌剤+展着剤の散布が一般的です。



シリカブロー 2500倍+殺菌剤+展着剤

2. トマト

イチゴ同様過湿条件での病気は多い。イチゴ以上に施設全体の空間量が多いため、施設内全体を本材では不可能なため、植物体に定期的に散布する。散布後トマトの果実に白いものが見えるが、トマトは収穫後拭く作業を行います。それに対応可能。

使用倍率: 1番開花時期まで1,000倍 茎葉中心に散布。

それ以外では2,000～2,500倍で散布。

鉢物資材で水和剤のため展着剤による

汚れ軽減に努めてください

頻 度: 現在は過湿になりやすい時期のみ散布。定期的には使用せず。

農薬混用: 他材と混用できない農薬は同様に不可

シリカブロー+殺菌剤+展着剤の散布が一般的です。